『約束』

ふたりでした約束は、
今日もかなうことなくひきだしの奥にしまわれている。
大切に大切に、しすぎたのだろう。
ときどき思い出して柔らかい布でみがくと、
かぶったほこりの下から、
忘れそうな記憶が顔を出して、
あの日のことが頭をよぎる。

遅い、
今さら、
まだ今なら、
でも、やっぱり。

『あれから』

床の上にだらりととけて横になる
冷たさはいつか逃げ場のない生ぬるさに変わり
背骨の真ん中あたりか左肩の不自然な姿勢でどう
しようもなくなる

夏なんだなあ
夏だねえ

ウソばっかり
そういった君とはもう会ってない
対岸の会話を聞き
それを自分のことと変換する
そんな毎日

『ただそれだけ』

三人グループで、
後ろっからついて行くだけで、
話しかけられもせず、
話しかけるタイミングがわからず、
いつも下を向いて前にいる二人の話を聞いては声
も出さずに笑い、
だけどハブられるわけでもなく、
一緒にいる、
みたいな人生。

『レイヤー』

背景に紛れる僕
重ねたレイヤーで少しずつ
修正というわがままで
なかったことにされていく
明るさ　影　たぶんその存在まで
すべてが完成して
ようやく見えたレイヤーの向こう
君の笑顔が見えたら
いなくなってもいいや
そう思えるのだろう

『交信記録』

おはよう
こんにちは
僕の声は聞こえますか
ぬいぐるみ相手にしていたいたいのですが練習も
そろそろ終わりにしたいのですが
帽子を被れば
なんの問題もありません
外は晴れ　ぶっ出れば
傘をさして出れば
なんの問題もありません

おはよう
こんにちは
僕の声は聞こえますか

何度練習しても
誰かの言葉をやり過ごすことができない

SLIDE
著者：添嶋 譲
発行者：空想少年は
テキストデーターの
夢を見るか？

2013年7月27日発行

literary-ace.littlestar.jp
literary-ace@ko.littlestar.jp